



不適切なケアの廃止の一步は 声掛けから！！

短期入所生活介護事業所 やまづみ荘

受講番号：003

松下 将大

短期入所生活介護事業所 やまずみ荘

- ・併設型(多床室)
- ・定員20名(1日平均17名 平均介護度:2.61)
- ・職員 生活相談員1名 介護員 6名
補助員1名 留学生 1名
(日勤帯 3名 夜間帯 1名)
- ・業務内容
食事・排泄・入浴・送迎 等



1. 取り上げた動機

- ・自分達が気づかないうちに、不適切なケアをしていないか考える場にしたい
- ・利用者本位の対応をすることで、利用者の行動にどんな影響があるのか確認したい

2. 現状と課題

- 限られた時間と職員数の中、動きが多い利用者に対して、「ちょっと待ってください」「座っててください」と声掛けをできていない場面が見受けられる。
- 不適切な言葉かけにより利用者の不穏を煽るような形になってしまっているような状態ではないかと考えた。



3. 目標

- ・ 職員が権利擁護についての理解を深めることができ、自分自身のケアについて見直す事が出来る。
- ・ 「ちょっと待ってください」や「座っててください」等の言葉を使わずに、利用者本位の言葉かけが出来るようになる。

4. 実施計画 (いつ どんな場所で 誰が誰と)

①勉強会の開催

- (1) 虐待防止や権利擁護、不適切ケアについて考えることの出来る勉強会の実施。
職員が集まる会議の中で勉強会の場を設け、今回の研修のフィードバックを行う。
- (2) 自分達の行っているケアに関して、不適切と思う対応が無かったか話し合う
- (3) 今回の実践ではスピーチロックをしないように全員の共通認識として共有

②実践

- ①で確認した内容を踏まえて実際の現場での言葉かけの際に、「スピーチロック」に成り得る声掛けを無くし、利用者の思いに寄り添えるように対応を行う。

③ アンケート・分析

- ・実施中していく中での利用者の変化、職員の気持ちの変化、成功例や失敗例等に関するアンケートを実施をする。
- ・アンケート結果の集計、分析を行う。成功例と失敗例に関して、不適切なケアとリンクする部分がないか分析を行う。

④ 再実践

- ・分析結果を職員へ対して共有を行い。成功例を参考に、今後の対応を行うように伝達をする。

5. 実施内容

①勉強会の開催・研修のフィードバック

- ・記録の書き方に関して勉強になったとの声が多い
- ・不適切なケアの話し合いでは、
「業務に追われてしまっている時に、自然とちょっと待ってと言ってしまう」
「以前の環境に比べると、今はゆとりが出来て気をつけるようにしているが、それでも言ってしまう」
などの意見があった。

②実践期間

- ・全職員気がけて対応をしていた。忙しかったり、瞬間的に「ちょっと待ってください」といっている場面は見かけた。癖になってしまっている職員がいるようにも感じる事ができた。

③④アンケート・集計

(1)スピーチロックをしない

- ・利用者がどうするか決めれるように、問いかけをするように声掛けをした

(2)利用者の反応はどうだったか

- ・「わかりました」「いいですよ」と穏やかに返された

(3)自分や職員の気持ちに変化があったか

- ・言葉を変えた事で利用者の反応が良くなり、自分の心も穏やかになり、より楽しく介護業務をすることができた。

(4)対応をした際の成功した声掛けや接し方

- ・不穏になりやすい利用者は、普段からこまめに話しかける
- ・人気の少ない場所で傾聴をする

(5)失敗した声掛けや接し方

- ・気持ちが慌てている事で、つい強い口調で接してしまった

⑤再実践

- ・「不穩になりやすい人にはこまめに声を掛ける」「人の少ない場所で話してみる」等の成功例を職員に伝え、再度業務の中で実践してもらう

6、気づき

- ・ 今回の実習中に、スピーチロックが完全に無くなったとは言えないが、職員全体で、不適切ケアについて学びなおすいい機会になった。
- ・ 同じように言葉かけをしているのに利用者の反応が違う事が何度も見受けられた。利用者のその時の気分によるものも大きいとは思いますが、“その職員との信頼関係”の面も関係してくるのではと気づくことが出来た。
- ・ 実習計画を立案した際には、利用者の反応や気持ちがどう変化するかを考えていたが、アンケートの中にあっただように、職員側の心にも余裕が出来たという職員がいるように、職員側への影響があることも気づくことが出来た。

7、その後...

研修終了後から今現在...

- ・施設内実習で、権利擁護について取り上げる前と比べ、職員の声掛けの仕方、認知症ケアについて考える職員が増えたと感じています。

(それでも、「ちょっと待って」は無くなりません...)

- ・権利擁護の研修を受け、自分に何が出来るかを考え行動する事が大事だと思っています。その1歩目として、不適切ケアを責めるのではなく、自分が不適切ケアをしていると気づくきっかけを職員全体に与えていければと考えています。職員全体で不適切ケアについて考え気づくことで、不適切ケアを無くしていける環境づくりに努めていきたいです。